恥ずかしい話ですが、あの頃の私としてはＨＡＮＤＳのルールがなんか利用者さん主体のはずがなんか違うような気がして仕方なかったです。
でも、一人暮らしをするようになって、自薦でやってみると、コーディネーターさんが利用者さんと介助者さんの間でワンクッションになってくれていたことが助かっていたんだなと、感じました。自分自身でヘルパーをコーディネートする難しさを改めて実感しました。ケアズの派遣をばっさり切られた時は痛かったですが、そのことによって自分自身に力が付いてきました。
私もかなり、戦いました。
まぁ、ＨＡＮＤＳの内に入って早いもので、５年目になりますがまだまだ。解らん事がたくさんあります。
これから　のんびりやって行きたいと思っています。
宜しくお願いします。

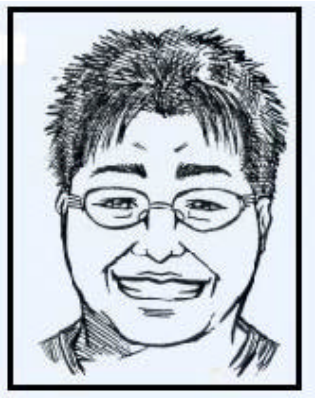
◆----------◆

中村茂明
ＨＡＮＤＳ世田谷事務局員

ＨＡＮＤＳ世田谷20周年おめでとうございます。
ＨＡＮＤＳで仕事を始めて 5年目に入りました、以前は通所の授産施設で 33年間働いていたので何もわからないままにＨＡＮＤＳのスタッフになりました。
授産施設という所は朝から仕事ばかりで施設の外でどのような障害者運動が行われているかも知らない状態でした。（現在は色々と勉強会を開くようになっているようです。）
しばらくしてから2級ヘルパー養成講座で障害当事者の講師の話を聞いて勉強してきなさいという事で、2級ヘルパーを取得しに来た人たちと一緒に毎週土曜日4回で 3ヶ月間講義を受ける事になりました。半年前まで体を動かして仕事をしていたので講義を長時間動かないで聞いているのに最初のうち辛いものがありました。
講義を聞いて勉強になったのは障害当事者には『自己主張』しなければならないと言う事です。今思えばＨＡＮＤＳで働くと親に告げた時や、親は入所施設に入ればと言うのを拒んだのが『自己主張』でした。
そしてある時施設入所している方からアパートを探すのを手伝ってほしいとの相談でその方と一緒に不動産回りを週一で 3・4ヶ所訪ねる事にして、全部で 30ヶ所ぐらい回り、話は聞いて貰えるけど連絡があったのはそのうち 3ヶ所で、障害の人たちにとってアパートを

探すというのが大変だとつくづく感じました。

これからもこのような相談を受ける事がたくさんあると思いますが、いろいろと自分で勉強して身につけて行こうと思います。



児玉良知
ケアズ世田谷職場介助者

「HANDS世田谷と私」

どうも、職場介助者の児玉良知です。「HANDS世田谷20周年おめでとう！」と是非言いたいです。

僕が持っているHANDS世田谷のイメージは、とにかく「手作り」とにかく「進化」といった感じです。職場介助者という立場より身近にHANDS世田谷の「手作り」と「進化」を実感することが出来たからかもしれません。HANDS世田谷のみに限ったことではないかもしれませんが、「新しい概念の手作り」は非常に得意だったように感じます。僕もそれに学んでか自分自身に新しい概念を取り入れたりしながら、おもしろ、おかしく自分の人生をコーディネートしています。僕が思うHANDS世田谷の「進化」とは「社会に向けての進化」です。普通なら「社会」に対し「順応」という言葉を連想しがちですが、HANDS世田谷の場合「進化」が適切なように思います。本当は「超越」の方が正しいかもしれません。僕は、こんなHANDS世田谷が大好きです。今までHANDS世田谷で採まれてきて、感謝、感激、雨あられ、「HANDS世田谷、おめでとう！そして、HANDS世田谷ありがとう！」お後がよろしいようで・・・・・・。　（※平成21年度をもって退職）

柳橋大明
ケアズ世田谷職場介助者

「祝!!!HANDS世田谷20周年!!!」

HANDS世田谷20周年、ケアズ世田谷10周年おめでとうございます。

HANDS世田谷で職場介助者をしています、柳橋です。

思い起こせば20年前、自分が何をしていたかというと、鼻くそをほじりながら友人達と近所を駆け巡り、遊んで怪我をしては泣き、そしてまた遊びに行くということをひたすら繰り返していた小さなお子様でございました。

その頃からHANDS世田谷は常に時代の先端を行き、社会に問いかけ続け、実際に社会そのものを変えてきたことを考えると、今こうしてこの場所で働かせて頂いていることを光栄に思います。そして、まだ私が学生だった頃、HANDS世田谷と接するきっかけを作って下さった、一人の当事者の方に深く感謝しています。

様々な形でHANDSと関わる中で、単に仕事に忙殺されるような現代社会の生活の在り方とは一味違う、なんとも言い難い不思議な…なんというか…何？…「甘味・苦味・渋味・酸味の入り混じったまろやかさ」…？みたいな…？…なにそれ…？そんなものを感じながら、日々を過ごしています。分かり辛くてすみません。あれです。色々な味があるからこその人生。まさにHANDSとの関わりは人生そのもの。そういうことです。

事務所内で時々空回って耳から煙を上げている私を、楽しそうに見つめるN夫さんの生暖かい視線を感じながら、また事務局スタッフをはじめたくさんの方々に支えられながら、非常勤ヘルパーだった頃から数えると足掛け 7年が経ちました。そして職場介助者として勤務し続け、早3年が経とうとしています。やっと？いえいえ、まだまだこれからです。

「変幻自在、縦横無尽」。これまで時代の流れに沿って、またときには時代の本流となりながら多種多様に変化し続けてきたHANDSを見習い、最近肩や腰と共に凝り固まってきた自分の脳みそを柔軟にしていきながら、ゆっくりゆっくり自分自身成長していけたらな、と思います。今後とも宜しくお願いします。

梶山暁子
HANDS世田谷・ケアズ世田谷
女性コーディネーター

唐突ですが、私、梶山暁子は《当事者主体》という考えが大好きです。

とは言っても、このHANDS世田谷、ケアズ世田谷においては《障害者と言われる方》が当事者なので《非障害者と言われる私》は当事者ではありません。

それでも私は、極端に言うなら「当事者の言葉は全部、たとえそれが正解ではなくとも本物」で、「当事者ではない人の言葉は、正論に見えてもほとんど偽物」だと思っています。実はこの考えは、4年半前に初めてHANDS、ケアズを訪れた時、既に私の中にありました。

私の中にこの考えが芽生えたのには、かれこれ30年近く前、小学生だった私が父親と死別したことが大きく関わっていると思います。

当時、通っていた小学校の私のクラスの担任は、道徳の時間に、私の父親が病気で亡くなったことを発表しました。先生の真意はわかりませんが、もちろん悪意があったとは思っていません。
授業が終わると同級生達は、たちまち私を取り囲み、我先にと、かわいそうな同級生である私を慰め、励まし始めました。「お父さんがいないなんてかわいそう」「気持ちわかるよ」「頑張ってね」…絵に描いたような優しい同級生達、こんな友達を持って私は何て幸せなの！！な～んて、思うはずがありません。だって、私自身をみたって、今まで他人の気持ちなんてろくに考えたこともなかったのに、何でそんなに急に、みんなに私の気持ちがわかるはずがあるでしょうか？
今思えば、随分、ひねくれた小学生だったのかもしれません。
でも私は、その時からずっと《本当の気持ち》というのは、経験した人=当事者にしかわからないと信じてきました。
HANDS、ケアズに来て《当事者主体》の考えを聞いた時、私が思ってきたことは間違いではなく、堂々と主張して良いことだったのだと気持ちが楽になったように感じました。
あれから4年半…いろんなことがありました。
フィギュアの浅田真央ちゃんの言葉を借りるなら、「長かったけど、あっという間でした。」
今までも、そしてこれからも《本当の気持ち》を一番に関わらせていただきたいと思っています。

伊藤　翠
HANDS世田谷・ケアズ世田谷
女性コーディネーター

HANDS20周年、ケアズ10周年おめでとうございます。
私が初めてHANDS、ケアズと出会ったのは、４年前サリダという求人雑誌が始まりでした。家から近いので軽い気持ちで応募したところ今も楽しく関わっている次第です。
HANDSは色々なことをやっていて、その多種多様さに最初は驚きながら、色々な活動に参加させて頂きました。
そんなHANDSも20周年を迎え、ケアズは10周年を迎えて、色々なことがあったと思います。
辛いこともあれば、成長していることも沢山あり、制度も変わっています。
HANDS、ケアズの良いところは変わらず、色々な人に出会い更なる年月を過ごせるよう新たなHANDS、ケアズの歩みを楽しみにしてます。（※S平成21年度をもって退職）